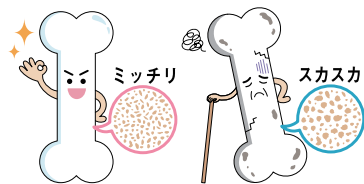


骨粗鬆症による腰曲がり

東名厚木病院脊椎センター長 和田 圭司

TOPICS



骨粗鬆症は、自覚症状がほとんどありません。いちばん問題となるのは、転倒やくしゃみなどのわずかな衝撃でも、骨折しやすくなることです。特に脊椎は、外傷が特になくても骨折することがあります。60歳代頃から脊椎の骨折が増え始め、70歳代になると他の部位の骨折よりも脊椎の骨折が上回るようになり、75歳以上で急激に増加します。脊椎が一つでも折れた経験がある患者さんの多くは、重症骨粗鬆症に分類されます。重症骨粗鬆症の方には、骨を急速に強くする骨形成促進剤による治療が強く勧められます。

これにはその方の病状によって、月1回の注射、毎日または週2回の自己注射が選択されます。脊椎

が数多く骨折すると、背骨が変形して背中が丸く盛り上がった状態になります。これを脊椎の後弯（腰曲がり）といいます。脊椎後弯が起こると、腰痛、背部痛、逆流性食道炎等の消化器症状等、体のいろいろな部分に症状が現れます。

このようにならないように、適切な骨粗鬆症治療が推奨されます。しかし、もし脊椎の変形がすでに進んでしまって、上記のような日常生活に支障があるようなら、脊柱矯正手術も可能です。しかし、この手術は体の負担も大きいため、このような変形を起こす前に、適切な治療をすることが重要と考えます。骨粗鬆症による脊椎の骨折で腰が曲がっている、自分の骨粗鬆症治療に不安があるようなら、脊椎専門外来を一度受診してみてもはいかがでしょうか。

図1



76歳男性 4か所に脊椎の骨折がある腰曲がり

図2



72歳女性 2カ所の重症な骨折があり背中が曲がっています

図3



手術を行い、脊柱の変形は改善しました



とうめい厚木クリニック

〒243-0034厚木市船子237

TEL.046-229-3377 FAX.046-229-1935

<https://www.tomei.or.jp/clinic/>

予約・お問合せ電話番号

☎ 046-229-1950